

平成 28 年度

元町だより

京都市立元町小学校

校長 佐原 裕子

TEL 491-7690

FAX 491-7921

3 月臨時号

<http://www.edu.city.kyoto.jp/hp/motomachi-s>



早春の候、保護者の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は、本校教育にご理解・ご協力をいただきましてありがとうございます。

先日は、学校評価のアンケートにご協力いただきましてありがとうございました。結果がまとまりましたので、お知らせさせていただきます。

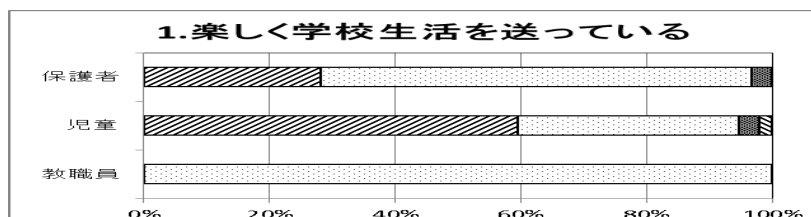
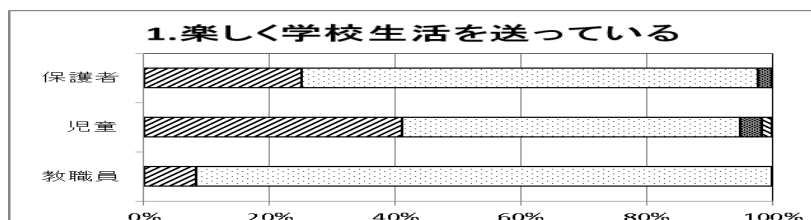
○今回、各項目について、児童は、そのことができているかどうかを聞きました。

保護者・教職員に対しては、各項目のできごとができるよう、声かけをしたり指導をしたりしているかどうかを聞きました。

上が前期の結果で下が後期の結果です。

凡		よくできている		だいたいできている
例		あまりできていない		できていない

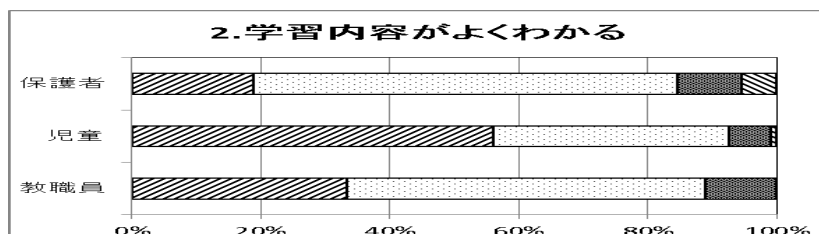
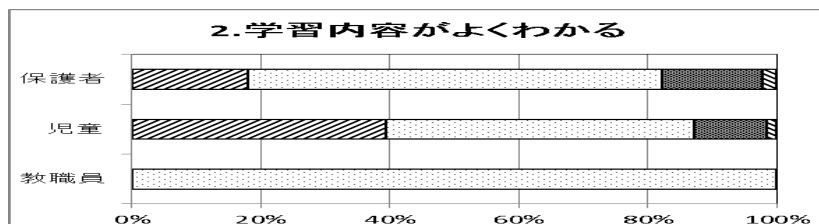
○学校生活全般にかかわる項目



後期も前期と同じような結果ですが、児童の中に楽しくないと答えている子がいるのが気になります。

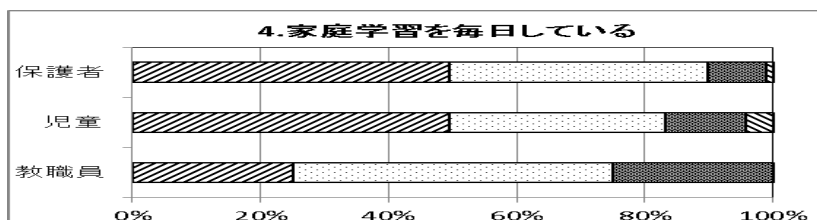
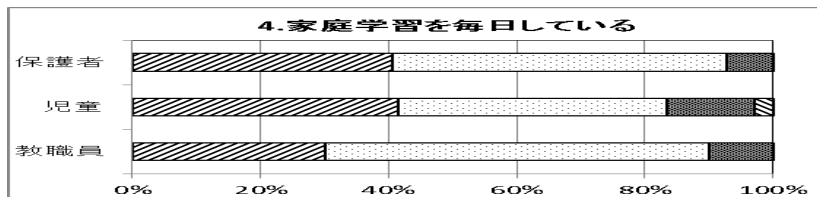
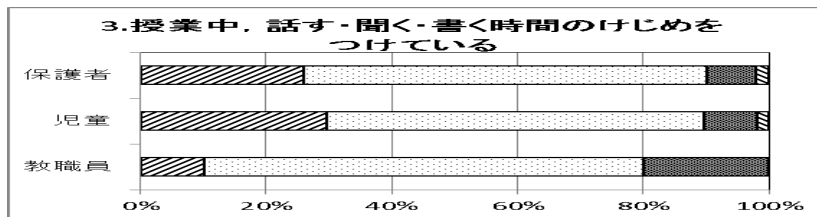
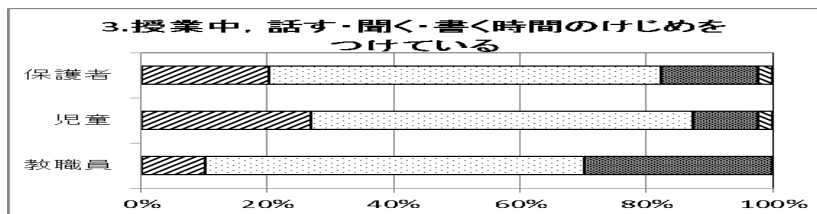
どの子も楽しい学校生活が送れるよう学校・保護者が力を合わせて声かけをしていくことが大切に思います。

○「かしこい子」にかかわる項目

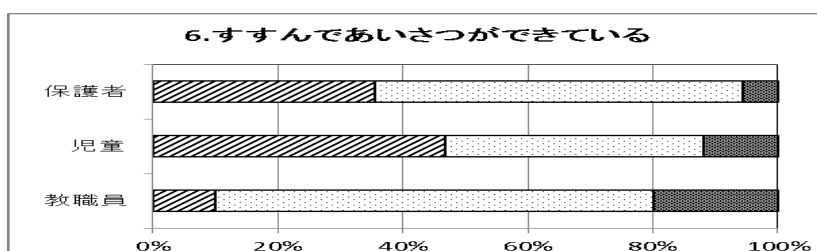
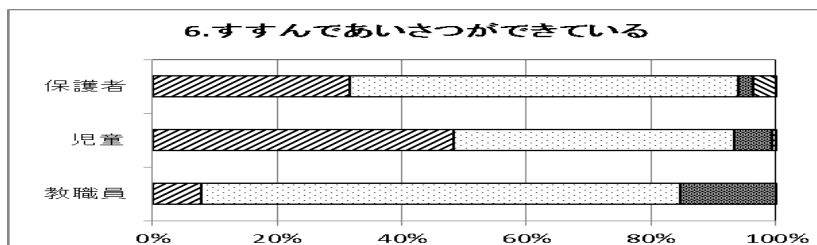
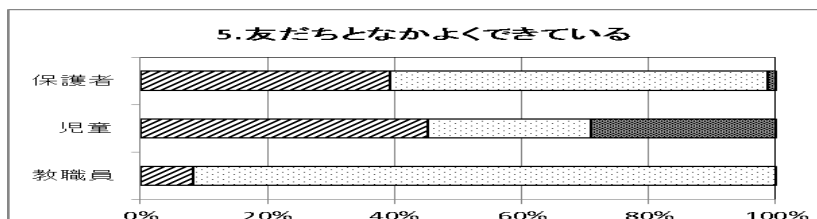


前期に比べ、子どもたちの学習内容の理解は、全体的には前期に比べてできていますが、ジョイントプログラムの結果を見るとよく理解できている子とそうでない子の二極化が気になります。ごく基礎的な計算が理解できなかったりする子もいるのが課題です。

次年度も放課後の個別指導なども取り入れていきたいと思います。



○「やさしい子」にかかわる項目



保護者や教職員の学習規律についての声かけが増えた結果、児童も少しずつけじめをつけて授業を受けるようになってきています。

来年度以降も、校時のはじめと終わりにあいさつをするなど、学習規律について学校として共通理解をしていけたらと思います。

家庭では、児童は前期に比べてきちんとできている子の割合が増えています。その一方で家庭学習をやらない子の割合も一定残っているのが気になります。ただ、忘れてもその日のうちに学校でやりきる意識はどの子もあります。

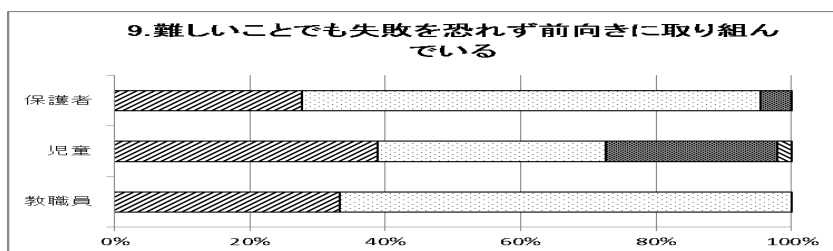
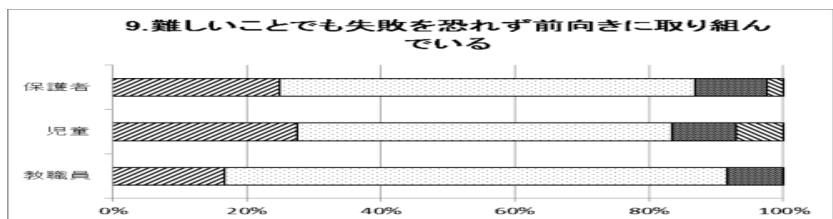
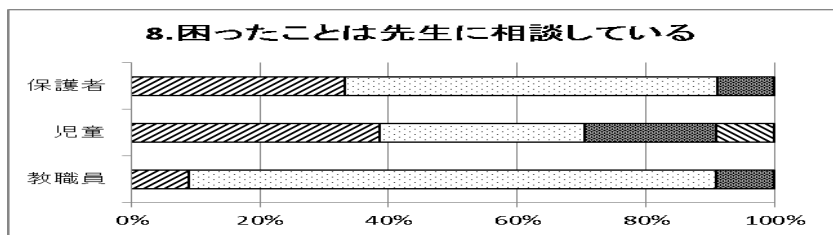
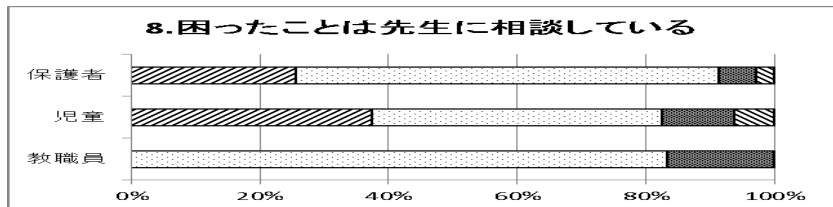
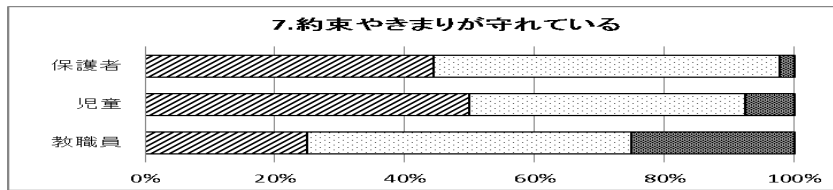
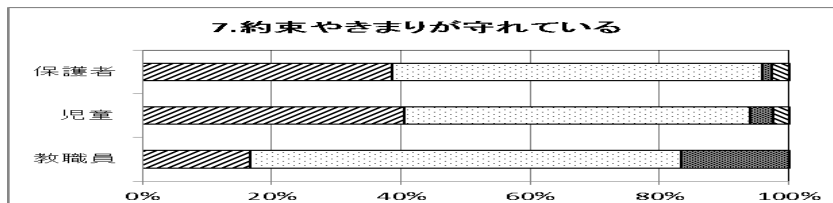
学校では家庭で自主学習を課題に出している学年もあります。自分から進んで学習する態度を身につけてほしいと思います。

前期に比べて子どもたちどうしの関係が良好になっていることがうかがえます。いじめのアンケートでも同様の結果が出ていますが、担任は、「あのねタイム」などを通して子どもたちの悩みなどを聞く中で、必ずしも仲良くできていないと感じています。

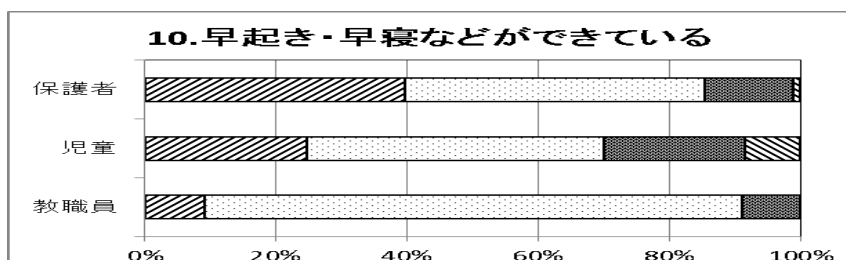
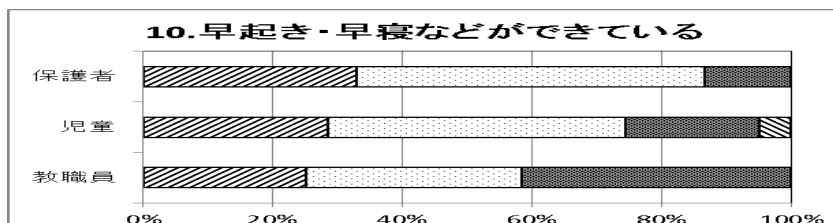
これからも注意深く子どもたちの様子を見ていきたいと考えています。

保護者の方が以前より声かけをしていただいているにもかかわらず、児童は前期に比べできていない割合が増えています。

以前できていた子もだんだん声小さくなったり、できなかった子もできるようになってきたりと様々ですが、来年度以降、学級目標にもあげていくなどして、見える形で成果を出していきたいと考えています。



○「たくましい子」にかかわる項目



保護者の方々も声かけをしていた
だいているおかげで、子どもたちの規
範意識が育ってきている結果となっ
ています。

学級でもきまりについて、毎日のよ
うに指導していますが、これからも楽
しい学校生活が送れるよう規範意識
について指導し続けていきたいと考
えています。

「あのねタイム」など子どもたちの
悩みを聞く機会は、設けていますが、
中には特に先生に相談することがな
い子もいて、後期の結果が落ち込んで
いることも考えられます。

保護者の皆様もお子たちの学校で
の様子をできるだけ聞いていただき、
気になることがありましたら、学校に
ご相談ください。

保護者や教職員の励ましがあるにも
関わらず、児童の中で難しいことに挑
戦してみようという意欲を持たない子
が増えています。

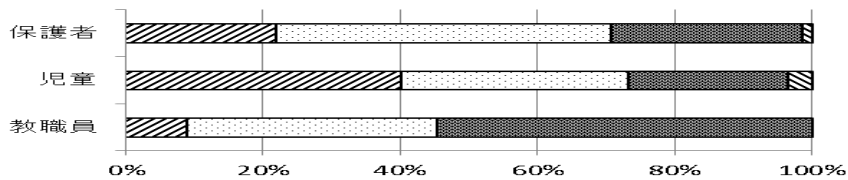
先日も3年生が七輪での餅焼きをし
ましたが、すぐに火のつけ方を教える
のではなく、子どもたちで試行錯誤して、
火がつかなかったら、支援するという
段階を追ったプロセスを大切にする必
要性が大切に思われます。

保護者の方々が声をかけていただ
いているにもかかわらず、前期に比べ
て児童の結果は少し悪くなっていま
す。

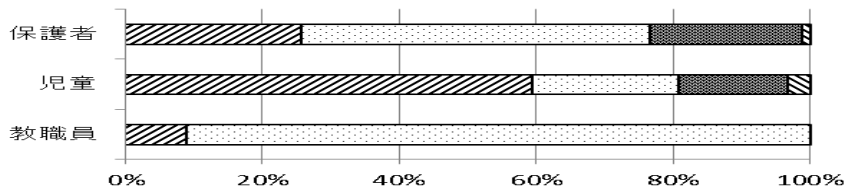
登校時も目がうつろで、脳が活性化
していない子もみられます。

今後も「生活リズム調べ」を夏季休
業や冬季休業明けに取り組んでみる
ことにしたいです。

11.外で遊んだり、体を動かしたりして運動している



11.外で遊んだり、体を動かしたりして運動している



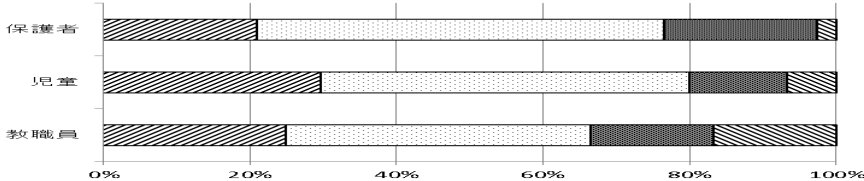
昨年度末の反省で、子どもたちが外遊びしないという実態が浮き上がり、今年度は子どもたちに声かけをして外遊びを勧めてきました。

その結果、前期よりも後期の方の結果がよくなっています。

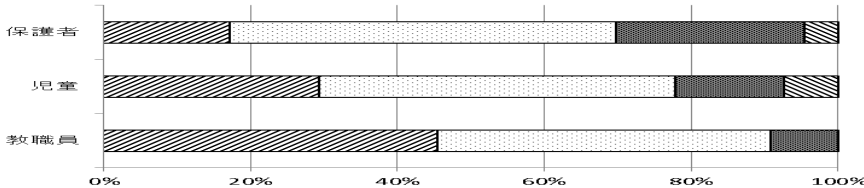
しかしまだまだ新体力テストの結果を見ると、全国平均より落ち込んでいる部分もあります。今後は部活動への参加なども積極的に呼びかけていきたいと思っています。

○学校独自の取組

12.地域行事に参加している



12.地域行事に参加している



年間通して「ふれあい土曜塾」の取組を継続してきましたが、昨年度とはほぼ同じ数の子どもたちが参加しました。しかし、毎回参加する子や全く参加しない子など様々です。

今まで、強い絆で結ばれていた地域社会が、社会情勢の変化で人間関係が希薄になっていく中、学校が地域の絆をつなぐ場として大切になってきています。子どもたちに今後も地域行事の参加を呼びかけていきたいものです。

自由記述より

○児童数が少ないので、他校との交流など希望します。

⇒部活動で支部の大会などに出場できるものはしていますが、サッカーは、人数が足りず他校と合同チームで何とか出場できるのが現状です。宿泊行事も紫明・紫竹両校と日程調整をしながら、合同で行くことができ、顔なじみもふえてきました。

これからも、様々な機会を通して、他校との交流を図っていききたいと思っています。

○学校の教育目標をより具現化し、保護者が何をどのような形で協力するのか示してほしい。

⇒学校教育目標は、学校の願っている姿、あるべき姿を示すもので、今のような形でいきたいと考えています。しかし、その姿に至るまでのプロセスの中で、例えば「あいさつをがんばる」「掃除をがんばる」「ジョイントプログラムに向けて準備の学習に取り組む」など具体的なめあてがあってもよかったのではないかと考えています。各学年によって実態もちがいますので、各学年ごとにめあてを変えることも必要ではないかと考えています。来年度以降、考えていきたいと思っています。

※他にもいろいろご意見がございましたが、学校全体で考える問題ではなく、個人や学級の問題として書かれているご意見でしたので、割愛させていただきました。

全体のまとめ

・前期と比べると結果が良くなっているものもあれば、悪くなっているものもあります。しかし、保護者の方々の子どもたちへの声かけが増えてきているように思います。来年度も家庭・学校、さらに地域が協力して、子どもたちを見守っていききたいと考えています。